

平成 27 年 3 月 18 日

## 平成 25 年度授業改善アンケート結果報告

川崎医療短期大学 FD・SD 委員会

本学では平成 21 年度から、全学生に対し専任教員の授業についてのアンケートを実施してきた。各教員はアンケート結果をもとに自分の授業を見直し、改善点等を「教員による自己点検報告書」にまとめ、PDCA(plan-do-check-action) サイクルを実行した。また、これらの結果は 2 年ごとの『自己点検報告書』で報告し、図書館で閲覧可能とした。

このような経緯を経て平成 25 年度は、初めて非常勤講師も加えた全教員の授業についてアンケートを実施した。結果は、それまでと同様個別に返却し、専任教員は「教員による自己点検報告書」を提出した。学科は、その結果をもとに FD(Faculty Development)活動を推進した。

ここでは、平成 25 年度授業改善アンケートの概略と結果及びその後のフィードバックについて報告する。

### 1. 実施状況

#### 1.1 実施日

第一回目（前期授業）：平成 25 年 5 月～7 月

第二回目（後期授業）：平成 25 年 10 月～2 月

#### 1.2 実施科目

専任および非常勤教員が前期、後期、それぞれ 1 科目ずつ授業評価を受けた。

対象者は、前期 129 名、後期 121 名であった。

#### 1.3 実施方法

OCR の回答用紙への印刷を除き、すべての作業を本学および情報システム室のスタッフが担当した。用紙レイアウトの確認、授業ごとのパック詰めは FD・SD 委員会委員、結果の集計は情報システム室、データ分析及びその印刷については原内一教授が担当した。

回答用紙の回収および密封は学生に行わせ、教員が教務課へ提出した。

#### 1.4 評価方法

「全くそう思わない」「あまりそう思わない」「ややそう思う」「とてもそう思う」の 4 段階評価とする。

### 2. 調査内容

#### 2.1 アンケート項目(16 項目)

- 1) 教員の話し方、説明等は明瞭で、よく聞き取れる。
- 2) 教員は、教材や視聴覚機器を効果的に導入している。

- 3) 教員は、毎回授業のテーマや目的、到達目標を明確に示している。
- 4) 教員は、授業の開始や終了の時刻を守っている。
- 5) 教員の授業の進捗は適切である。
- 6) 教員は、熱意をもって授業に取り組んでいる。
- 7) 教員は、学生からの質問等に適切に対応している
- 8) 教員は、私語を注意するなど授業を受けやすい環境を整える努力をしている。
- 9) この授業はシラバスに基づいて行われている。
- 10) 授業の内容は理解しやすい。
- 11) この授業で新しい知識や技術、考え方が身につけられる。
- 12) 私は、この授業中、マナー（携帯電話、私語、遅刻、途中退出をしないなど）を守っている。
- 13) 私は、授業に意欲的に取り組んでいる。
- 14) 私は、シラバスを確認して出席している。
- 15) 私は、予習・復習をして授業に臨んでいる。
- 16) 総合的にこの授業に満足している。

## 2.2 オプション項目

各担当者が任意で質問項目を設定できる。

## 2.3 自由記述欄

授業についての「改善すべき点」「よかった点」、また「アンケート自体についての意見・要望」を記入する。

## 3. 実施結果

### 3.1 回答率

前期 96.9%、後期 93.9%であった。

### 3.2 学科別平均値

4肢択一での回答であることから、評価は 1.0~4.0 の間に分布する。

前期の平均値は全体で 3.3 であり、学科別にみると、一般教養 3.2、看護科 3.4、臨床検査科 3.3、放射線技術科 3.1、医療介護福祉科 3.3、医療保育科 3.3、非常勤 3.2 であった。

後期の平均値は全体で 3.4 であり、学科別にみると、一般教養 3.4、看護科 3.5、臨床検査科 3.4、放射線技術科 3.4、医療介護福祉科 3.5、医療保育科 3.3、非常勤 3.3 であった。

### 3.3 分野別平均値

前期では、基礎分野 3.3、専門基礎分野 3.2、専門分野 3.3 で、平均して 3.3、

後期では、基礎分野 3.3、専門基礎分野 3.3、専門分野 3.4 で、平均して 3.4 であった。

### 3.4 前・後期アンケート結果の比較

各質問項目について、前期と後期の平均点を表 1 に示す。

表1 前期アンケート結果と後期アンケート結果の比較

		前期平均	後期平均	増減
1)	教員の話し方、説明等は明瞭で、声がよく聞き取れる。	3.4	3.5	0.1
2)	教員は、教材や視聴覚機器を必要に応じて活用している。	3.4	3.5	0.1
3)	教員は毎回、授業のテーマや目的、到達目標を明確にしている。	3.4	3.4	0
4)	教員は、授業の開始や終了の時刻を守っている。	3.5	3.5	0
5)	教員の授業の進度は適切である。	3.4	3.5	0.1
6)	教員は、熱意をもって授業に取り組んでいる。	3.5	3.6	0.1
7)	教員は、学生からの質問等に適切に対応している。	3.5	3.5	0
8)	教員は、授業を受けやすい環境を整える努力をしている。	3.4	3.5	0.1
9)	この授業は、シラバスに基づいて行われている。	3.4	3.4	0
10)	この授業の内容は理解しやすい。	3.2	3.3	0.1
11)	この授業で新しい知識や技術、考え方が身につけられる。	3.3	3.4	0.1
12)	私はこの授業中、マナーを守っている。	3.5	3.5	0
13)	私は、授業に意欲的に取り組んでいる。	3.3	3.4	0.1
14)	私は、シラバスを確認して出席している。	2.4	2.6	0.2
15)	私は、予習や復習をして授業に出席している。	2.5	2.7	0.2
16)	総合的にこの授業に満足している。	3.1	3.4	0.3

#### 4. 授業改善に向けてのFD活動

##### 4.1 アンケート結果の提示

図1のような集計表を各教員に返し、その結果について検討することを求めた。

##### 4.2 「教員による自己点検報告書」の作成

各教員は、授業改善アンケートを受けた科目について、次の4点について報告した。

- (1) 学生による授業評価の集計結果について
- (2) 自由記述について
- (3) 今後の改善策について
- (4) 授業評価の方法についての意見

##### 4.3 FD研修会の開催

「教員による自己点検報告書」は、各学科の主任のもとに集められ、授業改善アンケートの結果と合わせて学科単位でのFD活動の基礎資料とした。学科では、より良質な授業に向けて、活発な議論がかわされた。

さらに、その結果は全学的研修会で発表され、意見交換を行った。



## 5. 評価

今回のアンケート結果においては、対象とした学生の学科や学年が異なることから、総合的な平均値で教員間や学科間を比較・検討することは意味をなさない。むしろ着目すべきは、同一の教員における質問項目間の比較である。それを顕著に示しているのが、各教員に提示された集計表のレーダーチャートである(図1)。レーダーチャートの形状により、各教員が改善すべき項目内容が明示されている。

なお、本学では前期と後期の2回、授業改善アンケートを行った。共通教育以外の科目については、アンケート回答者がほぼ同じの場合が多い。そのため、前期と後期の結果を比較することで、各教員がどのように授業を改善したか、どのように取り組んだか、分析することも可能である。

- (1) 前期・後期ともに「教員の話し方、説明等は明瞭で、よく聞き取れる」「教員は、教材や視聴覚機器を効果的に導入している」「毎回授業のテーマや目的、到達目標を明確に示している」「授業の開始や終了の時刻を守っている」「授業の進度は適切である」「熱意をもって授業に取り組んでいる」「学生からの質問等に適切に対応している」「私語を注意するなど授業を受けやすい環境を整える努力をしている」について、「そう思う」学生が多く、教員が授業に真摯に取り組んでいることが評価されていることがわかる。
- (2) 一方、前・後期ともに「授業の内容は理解しやすい」「授業に意欲的に取り組んでいる」については、前掲した項目ほど評価は高くない。学生の意欲を引き出す授業に向けていっそうの工夫が求められよう。また、「シラバスを確認して出席している」「予習・復習をしている」という項目は他の項目に比べて低い値を示し、「そうではない」と思っている学生の比率が高くなっている。学生に対し、シラバスを確認して授業に臨むことや、大学での単位には授業以外の学習時間も含まれていることなどを、啓蒙していかなければならない。

これらの項目について前期と後期で比較してみると、「シラバスを確認して出席している」、「予習・復習をしている」がそれぞれ0.2ポイント増加し、「授業の内容は理解しやすい」、「授業に意欲的に取り組んでいる」についても増加傾向がみられる。少しずつではあるが、前期のアンケート結果が教員の意識に反映して改善効果をもたらしていることを評価したい。
- (3) 全項目について前期と後期を比較してみると、元々、高い評価であった「教員は毎回、授業のテーマや目的、到達目標を明確にしている」「教員は、授業の開始や終了の時刻を守っている」「教員は、学生からの質問等に適切に対応している」「私はこの授業中、マナーを守っている」では、変化が見られなかったものの、ほぼすべての項目において後期の評価が高くなっている(表1)。注目すべきなのは、各項目の平均値が0.1~0.2ポイント上昇であるなか、総合評価に相当する「授業の満足度」において全体で3.1から3.4へと0.3ポイント向上していることである。この結果から、本アンケートによる授業改善の試みは有効であったことが示されているといえよう。